

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 599

1部60円

友の会会員は会費に含まれています

発行 東京勤労者医療会代々木病院

院長 河邊 博正

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL 03(3404)7661

http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

2017年
9月号

50年の歴史を持つ精神科外来

精神科デイケアでの流しうめんつへり



精神神経科 科長

天笠 崇



社会生活の中で支え、患者さんと決める治療

現在、日本社会では長時間過密労働やハラスメントなどによる過労死や過労自殺などが多発し、大きな社会問題になっています。このような中、非正規雇用の拡大や残業代も支払わず過労死するほど働かせる「残業代ゼロ制度」(高度プロフェッショナル制度)の導入などが議論されています。今号は労働精神医学分野を含む精神神経科の活動を紹介しています。

当科は1968年に外来が開設され、もうすぐ50周年を迎える長い歴史をもちます。

現在の施設は、本館2階の外来と東館3階の精神科デイケア室(大規模)です。入院が必要になつた方には、近隣の有床精神科医療機関を紹介しています。

外来は、原則予約制です。毎月の延べ患者数は1300人前後。うつ

病、双極性障害、統合失調症、不安障害、強迫性障害、神経発達障害、睡眠障害、アルコール関連障害、摂食障害、認知症、てんかんなど、都会のど真ん中にある精神神経科らしく、あらゆる精神疾患の患者さんが通院されています。

当科は、常勤医師1人、非常勤医師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士、医療事務とボランティアで構成し、チームで精神科医療を提供しています。

患者さんと共に決める治療の実践

精神科デイケア室は、毎日20名余りが通所し、利用者さんには担当スタッフがついて、リハビリ計画に沿ったきめ細やかな対応をしています。面接や家庭訪問、家族も参加し、希望を伺いながらサポート。復職するための準備(プレリワーク)なども行い、年間8名ほどが就労しています。デイケア室の合唱団・ハーフトビートコーラス活動(注1)(偏見や差別の解消を目的)も特徴の一つです。世界精神学会アンチステイグマ文化国際会議でのフィナーレ企画に招かれたこともあり、マスコミで何度も紹介されています。

科長である天笠医師は、主に統合失調症を抱えた患者さんを社会生活の中で支える生活臨床の経験を活かしてきました。そこから発展して現在は、最新最良の精神医学的知見に根拠を求め患者さんと共に治療やリハビリの方針を決める「根拠(エビデンス)に基づく医療」を実践しています。心理教育、社会生活技能訓練(SST)、認知行動療法などを、具体的な技術として提供しています。デイケアでは、神経認知機能リハ(注2)の開始に向け準備中です。

科長は、過労性精神疾患や過労自殺の労災や裁判で必要とされる意見書を100例近く作成し、裁判所の証人尋問にも対応してきました。過労自殺の原因解明と予防対策の研究を目的に、2001年内地留学しました。産業医や労働衛生コンサルタントとしても活動してきました。これらの経験と研究を活かし、2015年に「労

労働者の命と健康を守る支援



天笠崇医師…保健指定医、産業医、精神科専門医・指導医。過労死・自死相談センター運営委員。(公財)社会医学研究センター代表理事、働くもののいのちと健康を守る東京センター理事長。著書『成果主義とメンタルヘルス』ほか

「勤精神科外来」を開設、毎週火曜日に行っています。

2012年、健診センター内に立ち上げた「代々木病院EAP(注3)ケアシステムズ(YES)」や、(公財)社会医学研究センター、働くもののいのちと健康を守る東京センターなどと連携を図り、従業員支援プログラム(注4)を行い、メンタル不全を抱えた労働者の診療を行っています。

- 注1 ハートビートコーラス：代々木病院デイケアメンバー合唱団として、2002年秋に結成。院内での演奏に満足せず老人保健施設や区民ホール、音楽大学、他院所デイケア、国の重要文化財施設などで年1～2回ペースで活動しています
- 注2 神経認知機能リハ：近年、神経認知機能障害の統合失調症との関連が明らかになり、神経認知機能の改善を目的とした認知リハビリテーション。注意、記憶、学習、問題解決、運動機能の幅広い障害の改善のために行います。
- 注3 EAP：2012年に開始した主に働く人のこころの健康を守り、生き生きと働き続けるために精神科医と臨床心理士を中心とした従業員支援プログラム活動
- 注4 (企業と契約してメンタルヘルスサービスを提供する事業)。ストレスチェックや、相談、メンタルヘルス講習会など。

千駄の萱

▼群青の空を原
子の炎で覆いつくされ、敗北を認めた日の関東地方は群青の空におおわれていた。戦争の色に染め上げられ、何も言えない空気の下、人々の目に青空は青空ではなかったはずだ。▼あれから、70年以上、空を見上げて、希望を見出す人は多かったと思う。そして、その希望の積み重ねと戦争に対する反省が今の日本を作り上げたと言える。▼しかし、今、社会の空気は徐々に変質している。某国が打ち上げるミサイルに対する警報に関する政府広報や報道は国民の空に対する意識を徐々に捻じ曲げている。また、現政権が強行採決した共謀罪法は、国民の意思や行動を縛り、物言わぬ従順な国民を育成したいという国の宿願の表れだと思ふ。▼その一方、政治家や官僚への監視は緩みっぱなしである。志とモラルを持ち国民の代表であるべき政治家の恥知らずな言動がマスコミを毎日賑わせている。全体への奉仕者であるべき官僚の付随行為と隠ぺい行為は公務員失格である。笑顔で辞めていく大臣の感想が「空(くう)」だそうだが、空っぽの「空(から)」ではないか。議員も辞め

ていただきたい。(ま)